

福島県病害虫防除所より8月30日付けで「令和3年度病害虫防除情報」が発表されました。モモせん孔細菌病の翌春の春型枝病斑の発生を防ぐためには、落葉痕からの感染を減らすことが重要です。

秋期防除を徹底し、越冬菌密度の低下を図り、次年度の発生防止に努めましょう。

## 1 モモせん孔細菌病の発生状況

- (1) 7月下旬の果実での発生ほ場割合は、平年並でした(図1)。
- (2) 8月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした(図2)。
- (3) 8月3半旬及び5半旬にまとまった降雨があったため、今後、新梢葉での発生が増加するおそれがあります。

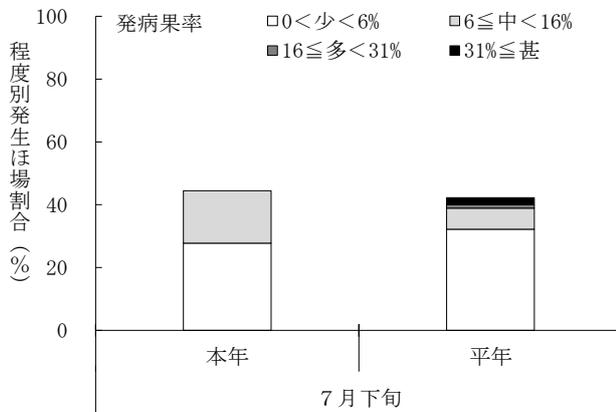


図1 果実での発生状況(7月下旬)  
調査地点: 福島地域9園地、伊達地域9園地

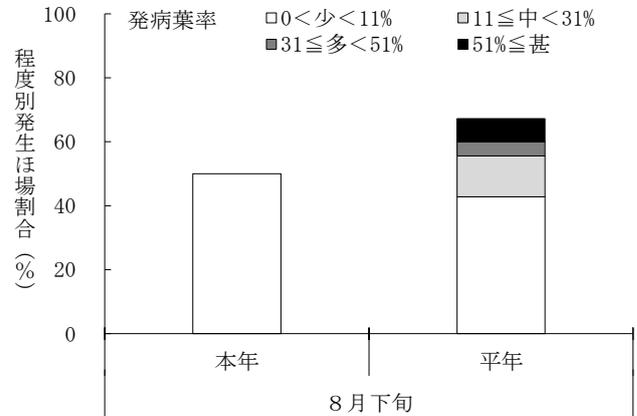


図2 新梢葉での発生状況(8月下旬)  
平年: 過去10年の平均

## 2 防除対策

### (1) 秋期防除の徹底

9月中～下旬に降水量が多いと翌春の春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあります。秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。

- ア 9月上旬以降2週間間隔でボルドー液などの銅剤による秋期防除を3回実施しましょう。「ゆうぞら」、「さくら」等の晩生種・極晩生種については、収穫終了後、速やかに防除を行いましょう。
- イ 秋期防除を実施する前には、あらかじめ秋季剪定を実施し、薬液がかかりやすいようにした上で、丁寧な散布を心がけましょう。また、1回目の防除以降に薬液のかかり具合(散布ムラ)を確認し、必要に応じて秋季剪定を追加で実施しましょう。
- ウ 台風等強い風雨が予想される場合、落葉痕からの感染が多くなるため、台風通過前に防除を実施しましょう。
- エ 使用する薬剤は地域の防除暦等を参照し、農薬使用基準を遵守してください。なお、薬剤によっては高温時等の散布は薬害を生じる可能性があるため注意してください。

### (2) 物理的防除等の実施

- ア 風当たりの強い園地で発生しやすいため、防風対策が重要です。台風の発生の多い季節に備え、防風ネットを既に設置している園地では、展張し、網の点検・補修を行いましょう。防風ネットを設置していない園地では、次年度に向けて設置を検討しまししょう。
- イ 樹勢の弱い樹で発生しやすいため、肥培管理などにより樹勢の維持を心がけましょう。
- ウ 雨よけ栽培は防除効果が高いため、例年発生が多い園地では導入を検討しまししょう。

**病虫害の発生予察情報・防除情報**

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>